

2. 特定教育・保育施設長会議（10月11日開催）の概要について

《冒頭》

市を代表し山中副市長より、本件の市の対応について説明不足や調整不足があったとしてお詫びし、事業者間の関係改善と市への信頼回復に努めていく旨を申し上げた。

《開催趣旨説明》

福田健康福祉部長から、アンケートの結果により、市と施設長の間での関係悪化や施設間においても深い溝ができていたことが改めて認められ、これまでの市の対応により、このような混乱を招いたことについてお詫びをしたとともに、今回の根本的な課題を共有した上で、本市の子どもたちや保護者にとっても良い方向となるよう、また、施設間が少しでも歩み寄れるよう、話し合いの場を設けた。

《施設長からの意見》

- ・ 混乱の原因は子ども福祉課の子ども・子育て支援制度の認識不足
- ・ 移転や定員増について、施設長会議等に全く話もないまま、市と内木会とで勝手にすすめたことが問題
- ・ 既存の施設に対して配慮不足
- ・ 公平性、透明性の確保
- ・ 行政が指導力を発揮してほしい
- ・ 保育現場を見ていただきたい
- ・ 情報共有をしてほしい
- ・ 信頼回復に努めてほしい

《今後について施設長会議からの提案》

- ・ 市の改善を担保するために、協議書や協定書を作成してほしい（全体で話し合うものの明確化）
- ・ 施設長会議の議事録を作成してほしい（持ち回りでも可）
- ・ 採決を取る時は、不公平になるため1法人に1票にしてほしい
- ・ 欠席した施設についても内容を周知して、意見を言えるようにしてほしい
- ・ 施設長会議の議長は公立保育園長の持ち回りではなく部長か課長にお願いしたい
- ・ 施設長会議で取り上げた問題は子ども子育て会議に報告し議論され、その結果が施設長会議に戻される、といった連動性を持たせ、施設長会議の意見が尊重されるようになってほしい
- ・ 方向性が決まった時の周知の徹底
- ・ 分園についても協議してほしい
- ・ 来年度の利用定員設定については、施設長皆が納得できる話し合いが必要

《今後の市の対応について（案）》

- ・ 公平性・透明性を確保するためにも情報共有、施設の意見を聞ける環境をつくり信頼回復に努める
- ・ 施設整備については、計画の段階から施設長会議等において情報を共有し、意見を聞いて進めることとする
- ・ 利用定員について話し合いをする
- ・ 全体で協議するものを明確化する
- ・ 施設長会議のあり方を施設の意見を聞きながら見直し、施設と市が情報を共有し重要・緊急案件があった時は、その都度臨時の会議を開催し、施設の意見を聞くこととする
- ・ 施設長会議での意見集約方法について話し合う
- ・ 施設長会議で取り上げた問題については子ども子育て会議に報告し、その結果を施設長会議に戻す

※10月19日施設長会議にて提案、協議予定
(次回以降も協議をしていく予定)

上記の内容が、市子ども・子育て会議より付された、市が施設との連携・情報共有に取り組むとする具体的な内容の提示、として位置付け、引き続き施設長会議で協議していく

《会議としてのまとめ》

- ・ 市の子ども・子育て会議で、子ども・子育て支援計画変更の了承のために付された条件である「薬師寺保育園の移転に関するアンケート」については、アンケートの結果が、移転・移行計画の変更や撤回等の影響に及ぼすものではないと理解しているがアンケートの結果、内木会系列以外の園は、移転には反対するとの意見であった。
- ・ しかしながら、全ての園は、今回のことについて妥協点を見出して、関係改善を図るとともに、前に進まないといけないとの思いは共通している。一方で、市への不信感が強く、たとえ市から謝罪があったとしても、この場ですぐに首を縦にふることはできないという意見もあった。このような中、市の謝罪を信じ、今後どのような市の保育行政を改善していくか施設長会議等で議論すること、特に利用定員については、皆が納得するように話し合いをすることを市との間で確認した。
- ・ 誰もが、「子どもたちのために」という方向は同じであり、この状況を良しとはしていない。ただし、今回の件は口約束ではいけない。市が改善に取り組む考えを施設長皆が確認し、これにより本件を認めた経緯があることを明らかにすること。これを市が担保して欲しいとの意見が出された。
- ・ 最後に、施設長会議として、今後、市が改善に取り組むことを条件に、薬師寺保育園の認定こども園への移行と移転について了承された。